

No. 495【2022年3月4日配信】

長島尋常小学校の校舎建設と岡田健蔵 (担当:村上亜弥)

こんにちは。歴史資料室の村上です。青森市民図書館は新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月28日まで臨時休館していましたが、3月1日から開館しました。これに伴い、歴史資料室の館内展示「学び舎の思い出—学校旧跡めぐり」も再開しています。今回はこの展示でも取り上げている長島尋常小学校に関する話題をお届けします。

長島尋常小学校(現長島小学校)は大正12年(1923)3月10日に発生した火災により校舎の一部を焼失し、新校舎を建設しました。この時に建設された校舎は青森市では初となる鉄筋コンクリート造りの校舎でした。

火災後の3月19日、工藤卓爾市長や市会議員が参加する市勢調査会で新校舎に関する審議が行われました。木造と鉄筋コンクリート造りを比較し、ほとんどの委員が鉄筋コンクリート造りに賛意を示しましたが、市の技術者による視察・調査を行った上で判断することになりました。

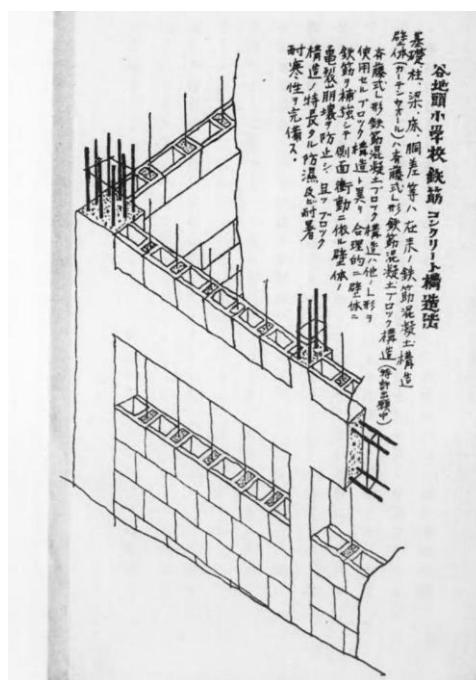
実は、この市勢調査会の開催に合わせて興味深い人物が青森市役所を訪れています。それは函館市会議員の岡田健蔵です。岡田は函館市の図書館事業の基礎を築いた人物であり、鉄筋コンクリート造りの図書館施設を整備するために尽力したことで知られています。

岡田は工藤市長・鈴木助役と面会し、建築に関する専門的な見解を示しながら、長島尋常小学校の新校舎は鉄筋コンクリート造りにするべきであると進言しました(『東奥日報』大正12年3月20日付朝刊)。岡田は図書館施設だけでなく学校も鉄筋コンクリート造りにするべきという考えを持っており、2月に行われた函館市会では市立谷地頭小学校を鉄筋コンクリート造りにするよう訴えていました。しかし、その考えは受け入れられず、岡田は『函館毎日新聞』に論説「小学校建築の不燃化について」を連載して市民に理解を求めています。さらに、3月12日付の『函館毎日新聞』に掲載された論説では、函館市民の三省(何度も自分の行いを反省すること)すべき事例として長島尋常小学校の火災被害を取り上げています。



岡田健蔵

(『函館大火史』1937年 函館消防本部、
国立国会図書館デジタルコレクション)



谷地頭小学校鉄筋コンクリート構造法

(岡田健蔵『小学校建築の不燃化に就て』1923年
紅茶倶楽部、国立国会図書館デジタルコレクション)

岡田の進言が青森市の判断にどの程度影響したのかはわかりませんが、4月13日に行われた市勢調査会では新校舎を鉄筋コンクリート造りとすることが満場一致で決定しました。工事は6月に始まり、12月に完成して市に引き渡されました。この校舎について12月15日付の『東奥日報』には「小学校には惜しい建物だ・・・と褒めちぎられている」と紹介されています。木造校舎を見慣れた人々にとってはとても豪華な造りに見えたのでしょうね。

なお、この校舎は昭和20年(1945)7月28日の空襲で焼失を免れ、戦後も使用されました。



昭和20年代後半の長島小学校
(『復興した 新しい青森』青森市政研究社 1954年)

※今回の内容は岡田健蔵『小学校建築の不燃化に就て』(紅茶倶楽部 1923年)、坂本竜三『岡田健蔵伝』(講談社出版サービスセンター 1998年)などを参考にしています。